

PTA

# やまがた

第34号

平成22年3月発行

・編集発行・

山形県PTA連合会

会長 遠藤正明

山形市緑町1-9-30

山形県新築西通り会館内

TEL 023 (631) 0055 FAX 023 (635) 4359

・印刷所・

中央印刷株式会社

山形市銅町1-1-5 TEL 023 (631) 5533



県P連活動スローガン

『はぐくもう

笑顔輝く山形の子どもたちを』

— 行動しよう 守り育てるPTAを目指して —

# 笑顔輝く

## 子どもたちのために

山形県PTA連合会会長 遠藤 正明



**日** 頃より山形県PTA連合会の運営に対し深いご理解と温かいご支援をいただき、衷心より感謝申し上げます。本年度は「はぐくもう 笑顔輝く山形の子どもたちを」を行動しよう 守り育てるPTAを目標として、子どもたちを取り巻く課題の解決に向け、各郡市PTA・各単位PTAの皆様とともに力を注いで参りました。

今、学校や子どもたちを取り巻く環境が大きく変化し、深刻ないじめ、

児童虐待、不登校、少年犯罪の低年齢化や凶悪化などあつてはならない、教育の根幹を揺るがす様な事が、現実として起こっています。それは、子どもたちを守るべき大人が、その責任を果たしていない表れだと感じます。対岸の火事ではなく、我がこととして捉え子どもたちに関わる全ての人が、真剣に考える必要があります。また昨年「教育再生」のもと、先を見据えた教育の骨組みづくりと「いじめ等」に対する緊急の対応が検討されています。我々PTAは様々な施策が子どもたちのためになるように考え、課題の解決に向け行動していかなくてはなりません。

そこで、家庭・学校・地域社会の架け橋として、また地域の一員としてのPTAの役割が、ますます重要なものになってきております。教育の基盤は家庭にあります。家庭での育ちがあり学校での学びが成立し、地域の人々とのかわりの中で大き

くのびていきます。すなわち「家庭で育ち、学校で学び、地域でのびる」ように、子どもを守る大人が、しっかりと子どもたちを見守り育てていく事が大切です。

さて、本年の活動として初めに研修大会の開催についてご報告致します。十月に、第六十一回山形県PTA研修大会最上大会が、「家庭・学校・地域とのかかわりの中で育もう、いのち輝く子どもたちを」を大会主題として、県内各地より千余名のPTA会員の皆さんのご参加をいただき開催されました。大会では、「組織運営」「研修活動」「健全育成」「家庭・地域と学校教育」「健康・安全教育」のテーマで五つの分科会が開催され、それぞれの参加型の分科会では活発な討議がなされ、課題解決に向け情報を共有し、家庭の基盤となる家庭の教育力を高める研修が出来たものと確信しております。全体会での記念講演では、「くふるさと・愛・平和を願って」林隆三と楽しむ賢治童話の世界」と題し、林隆三氏による「ことばの力」を再認識するご講演をいただきました。参加者は、賢治童話に触れ、心が温かくなる時間を過ごした様です。

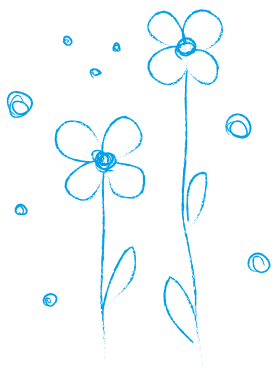
本年は県内千六百名の保護者を対象にした「意識調査」を行いました。

集まったデータには、子どもたちを思う保護者の温かい心が映し出されていきました。そして、今後の活動方向がみえるものとなりました。

十一月には、県教育委員会と県高等学校PTA連合会との合同教育委員会懇談会が開催されました。会では、「学校・家庭・地域のコミュニケーションについて」というテーマで、意識調査の中間報告をもとに、親としての我が身を振り返りながら、小・中・高と成長していく子どもと親のかかわりを始め、学校と家庭、地域内のコミュニケーションについて考える機会となりました。

今後も山形県PTA連合会は、笑顔輝く子どもたちのために、社会の変化を敏感に感じ取りながら課題の解決に向け考え、行動していきたいと考えております。

最後になりましたが、ご支援ご協力をいただいた、県教育委員会を始め関係各位各機関の皆様に対し心から感謝申し上げます。



## デジタル化時代の中で



山形市立滝山小学校長  
平尾 幸治

### 戦

後最悪といわれる経済状況は深刻であり、改善の兆しすら見えないようです。失業者やホームレスが増え、年末年始は東京で臨時の宿泊所が設置されたことが報じられました。

近年日本の家族には「ハウスはあるがホームがなくなつた。」と言われます。家やマンションなどには住んでいるもの同士や家族間の人間関係が希薄になつたことを表現した言葉です。住まいはハウスであり、ホームは家族の温かい人間関係のことです。本来家庭には、心の通う家族が居り、安心できる団らんの場合があつたはずですが、いま学校では、新しい学習指導要領による学習が段階的にスタートしていきま

育」が見直され、確かな学力を確実に習得し、これらを活用して「社会の中でたくましく生きていく力」が求められています。すなわち「生きる力」をより一層育むことを継続しねらいとしています。この「生きる力」とは、自分の心を開き、自分と異なる考えや感じ方を持つ人を認め、共にかかわり合う中から育まれるものです。

教師と子どもたちが常に向き合うという学校の姿も同じです。教師と子どもたちは、対話や体験を通して共に考え、共に汗をかき心を通わせ、一人の人間として切磋琢磨し合いながら成長するところに教育の原点があります。教師と子どもの信頼される人間関係の構築は以前に増して大切になってきています。

今日、科学の発達はめざましく、便利になつてきています。一人で楽しめるテレビやゲーム・パソコン等があり、まさにデジタル化時代です。しかし、学校も家庭も生身の人間対人間がしっかりと向き合う、アナログ的なところに原点があるような気がします。デジタル化時代の中で、あえて子どもたちにアナログ的な体験や経験の大切さを私は感じます。

## 県PTA研修大会最上大会を終えて



最上地区PTA協議会会長  
深田 裕一

### 昨

年十月、最上地区主管による県PTA研修大会が秋晴れの中、県内各地より多くのPTA会員の皆様にご参加いただき、無事終えられましたこと、心より御礼申し上げます。

午前の五つの分科会では、最上地区の方々を務めていただき、県内各地のパネルの活動報告がなされました。会場内の積極的な意見交換もあり、関わっているからこそ見える会員達の知恵、実践者達の強くあたたかな言葉は、きつと参加者全員に同じ風を吹かせたのではないのでしょうか。午後の部は、当地区安楽城小の子どもたちの「童唄」で幕が開き、全体行事に続き講演会は『ふるさと・愛・平和を願って』——林隆三

と愛しむ「賢治童話の世界」という演題で行われました。当地区ゆかりの林さんは、幼少の頃、温かな方言に育まれ育ちました。力強く深く言いようもない温かさに満ちた林さんの朗読の世界は、まさにその頃から培われたものでしょう。会場内をひとつのうねりに飲みこんだまま、最後のピアノ弾き語りへ。原爆でふるさと長崎を壊された人の作である「ふるさと」の空の下で」と「愛の賛歌」でした。

熱いものを皆の胸に残し、幕は降りました。それを見つめる実行委員は皆、同じ思いだったことでしょう。最後に、本大会開催にあたり、ご協力いただいた各関係機関の皆様、そして最上地区一市四町三村の実行委員の方々、駐車場係等で講演を聞くことが出来なかつた会場外で本大会を支えて下さった方々には、心から感謝申し上げます。

山形の会員の皆様力を、再認識させられた年でありました。来年度開催されます第六十二回山形大会がより実り多き大会になりますことをお祈り申し上げます。

# 山形県PTA母親委員会の活動報告



県PTA母親委員長  
無着道子

「命の尊さ大切さ」のテーマのもと、みなさまのご理解とご指導をいただき活動することができました。かけがえのない様々な出会いに、心より感謝を申し上げます。

各郡・市においては、それぞれの現状に応じた取り組みが展開されました。多様な母親委員会のあり方を認め合い、親同士がつながり、支えあう仲間づくりをする「場」になることに意義があると感じています。定例委員会は四回の開催となりましたが、日頃の思いなども含め互いに伝え合い、成果や課題、時には悩みを共有しながら情報交換を行いました。また、「思春期への親のかかわり」や家庭でのコミュニケーションに関する研修は、子どもの心に向き合い寄り添うことがのぞましいのかを子どもの目線で捉え、日常に活かすことのできる学びをいただきました。伊藤先

生からは、子どもが自己肯定感を持ち、豊かな人間性や知恵、たくましさや身につけていけるように、大人が手間ひまかけてかかわっていくことが必要……のお話をいただきました。

心の通い合う人とのつながりの大切さを、あらためて実感した一年でした。子どもたちの「今」を見つめ、さらには、将来を見通した大人の行動の大事さを思います。

## 第一回母親委員会 六月十日

- 正副委員長の選出
- 活動計画及び情報交換
- 家庭における月経教育の実態調査協力について

## 第二回母親委員会 九月十六日

- 各研究大会の報告及び情報交換
- 研修「思春期への親のかかわり」講師 伊藤洋子氏

## 第三回母親委員会 十一月十三日

- 「母親委員会だより」作成案
- 県PTA研修大会等の報告
- 情報交換
- 県教育委員会と県P連・高P連の合同教育懇談会参加

## 第四回母親委員会

平成二十二年二月八日

- 「母親委員会だより」について
- 今年度の反省及び情報交換
- 研修「やる気と能力を引き出す魔法の質問〜家庭でのコミュニケーション〜」講師 松田充弘氏

## 各地区の主な活動報告

### ◎山形市

- 母親委員会（五月・九月・二月）
- 研修「思春期への親のかかわり」山口節子氏
- 拡大母親委員会講演会（十一月）「かわる喜び つながる心」

### ◎上山市

- 母親委員会だより「マザーズねつとわーく」三月発行
- 母親委員会（七月・九月）
- 研修会（十月）

### ◎天童・東村山地区

- 母親委員会（六月・十一月）
- 母の集い講演会「子どもを犯罪から守る」

### ◎西村山地区

- 母親委員会だより二月発行
- 母親委員会（五月・九月・一月）

### ◎北村山地区

- 「We can! ビューティー&リフレッシュ」阿部涼子氏
- 母親委員会だより二月発行

### ◎北村山地区

鈴木 敦子

- 北村山PTA研究集会参加（九月）
- 「子どもに携帯を持たせる親のあり方」田中恵美氏

### ◎最上地区

- 各市町、単Pでの活動
- 地区代表委員会議（五月）

- 山形県PTA研修大会参加・協力
- 母親委員会だより「かあちゃんほつとらいん」二月発行

### ◎米沢市

- 母親委員会（五月・七月・十一月・二月）
- 講演「かけがえのない命のために親としてできること」後藤敬子氏
- 保健講話「思春期への親のかかわり」山口節子氏

### ◎東置賜地区

- 母親委員会だより二月発行
- 各単Pの専門部との合同事業を実施する等、それぞれの単Pで活動

### ◎西置賜地区

- 母親委員会（年三回）
- 地区PTA連絡協議会交流会協力
- おたより二月発行

### ◎鶴岡市

- 母親委員会（六月）
- 母親委員会研修大会（十一月）
- 「子どもの心に寄り添う」

### ◎東田川地区

- 母親委員会（年二回）
- 小・中十一校の代表母親とPTA役員による情報交換
- 今後も単P間の連携を図る

### ◎酒田市

- 母親委員長等会議（七月・十二月）
- 研修「子育て体験談・ラフターヨガ」山口考子氏
- 酒田市P連研修大会協力（一月）

### ◎飽海地区

- 母親委員会（年三回）
- 研修会（十一月）「あなたの笑顔とうなずき」小さな心の栄養剤」後藤敬子氏

### ◎加地早由里

- 母親委員会だより二月発行

# 県教委との合同教育懇談会

「学校・家庭・地域のコミュニケーションについて」というテーマで開催された懇談会。冒頭に遠藤正明県P連会長より今年のテーマについての目的や趣旨説明（「教育に関する保護者の意識調査」結果概要）をしていただき、話題提供として舛田忠雄山形大学名誉教授より「コミュニケーションにかかわる県PTA会員の意識調査」の中間報告をしていただきました。

回答者は母親が八三％で父親が一六％であり、今回の調査では三十歳代から四十歳代までの母親の回答が八〇％を超えています。父親と子どもは七九％、母親と子どもは九四％、コミュニケーションがとれている、コミュニケーションがとれていない理由としては「余裕がない」「子どもがわからない」を挙げている。保護者と先生のコミュニケーションは七七％がとれている、保護者から見ると先生は七二％が忙しいと感じている。気軽に先生に相談できる保護者は五六％、先生がはじめなどに適切に対応してくれていると感じる保護者は七六％。

以上のような中間報告をもとに①家庭の中でのコミュニケーションについて②学校と家庭のかかわりについて、という二つの課題に分けて出席者の皆様より意見を出していただきました。

## ◎家庭の中でのコミュニケーションについて（家庭の中での会話の重要性、会話の役割、会話の方法を考える）

- PTA活動や部活動に積極的に関わるようになってから子どもとのコミュニケーションがとりやすくなった。
- 子どもが小さいときにしつかり会話をすれば、大きくなってからのコミュニケーションは心配ない。それよりも親子で夢を語れない今に不安。

- 社会の中で自分を抑えないと生きていけないのではないかと萎縮している今の子どもが心配。
- 親子の関わりにマニュアルは無い、夫婦間のコミュニケーションこそ重要。
- 朝一緒にごはんを食べながら会話帰ってきたら学校の様子を聞くといったあたりまえの事を実行。男の子には「耳そうじ」などのスキンシップも大事。

も子どもと同じように学び行動を！是非来年度は家読（読書）で家庭のコミュニケーションを推進していきたい。藤沢純高P連会長からは今回の県P連のアンケート内容は大変素晴らしい。半数近くの保護者がコミュニケーション力不足と感じている、子どもとのコミュニケーションは家庭がしっかりしていることが大前提！という力強いお言葉をお二人からいただき懇談会を閉じました。

文責・県PTA連合会理事

早坂 幸起

- 子どもが卒業してからも保護者の「読み聞かせ」や「見回り隊」などの学校ボランティアとしての関わりが大事。
- 保護者が関わる学校行事が少なくなっているので、学校から保護者に対してもっと要望（手伝いの）をしてもらいたい。
- 学校と地域のコミュニケーションには地域のお年よりも巻き込むべき、高齢者の生きがいづくりにも貢献できる。

最後に本日の総括として、遠藤正明県P連会長からコミュニケーションはあたり前のこと、親として大人としてどう行動するのが大事。親



## 「保護者と学校・子どもと親のコミュニケーション」

県教育委員会の発案で「やまがた教育コミュニケーション改革」が推進されていますが、PTAは「学校・家庭・地域の架け橋」としての役割が期待されています。そこで、山形県PTA連合会では、特にコミュニケーションを中心に保護者の意識調査を行い、その結果を今後のPTA活動に活かしていきたいと考えています。この調査は、小学2年生、小学5年生および中学2年生の保護者を対象とし、県内の小・中学校427校から無作為に抽出した55校(1,502名)にご協力いただきました。その中から注目される項目に絞って概要を掲載しました。

対象者の属性をみると、性別では女性が83.5%、男性が15.9%であった。年齢別では40歳代が48.2%、30歳代が42.3%で9割強となっている。子どもとの続柄は母親が82.8%、父親が15.9%である。したがって調査結果も30・40歳代の母親の意識傾向を示していると思われる。

まず、「子どもたちの中での学力格差が大きくなっていると感じているか」をみると、「ややそう思う」が半数強の52.4%と最も多く、「強くそう思う」(15.7%)を加えると7割強(68.1%)の保護者が学力格差があることを感じている。学力格差を感じない保護者は「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」を加えても23.4%である(図1)。子どもの学力向上のために学校に求めたいことでは、「ある」が65.8%と圧倒的に多く、「ない」(16.1%)と「わからない」(16.2%)は少数である(図2)。

次に保護者と担任の先生とのコミュニケーションについてみてみよう。「まあまあ取れている」が63.8%と最も多く、「十分取れている」(12.7%)を加えると8割強(76.5%)の保護者が先生とのコミュニケーションが「取れている」と感じている(図3)。先生の忙しさについては「多少は忙しいようだ」が42.4%と最も多く、次いで「かなり忙しいようだ」が29.2%となっており、両者を加えると7割強(71.6%)の保護者が「先生は忙しい」と感じている(図4)。先生が忙しいと感じている中、相談事があるときに気楽に時間を取ってもらえる雰囲気かどうか。「いつも気楽に相談に乗ってもらえる雰囲気だ」が半数以上の56.4%で最も多く、次いで「相談するのに少し気が引ける雰囲気だ」が15.4%、「調整のうえ、やっと相談に乗ってもらえるという雰囲気だ」が11.3%と続いている。「わからない」とする保護者も13.1%存在する(図5)。仮にいじめなどの問題が起きた場合、先生は適切に対応してくれるとの信頼感はどうか。「ある程度の信頼はできる」が半数以上の53.6%で最も多く、次いで「十分に信頼感がある」が21.2%となっており、両者を加えると7割強(74.8%)の保護者が先生に対して信頼感を持っていると思われる(図6)。

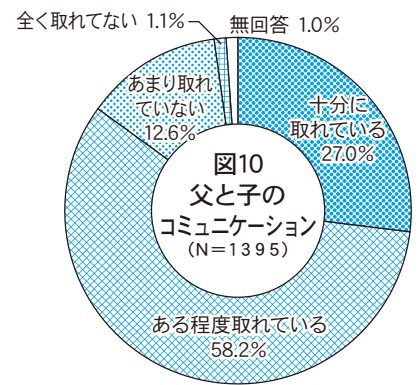
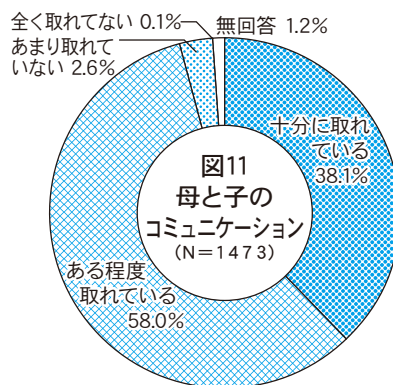
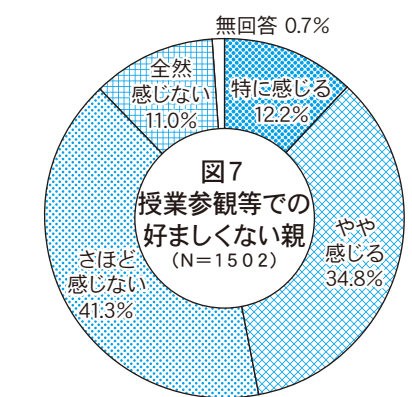
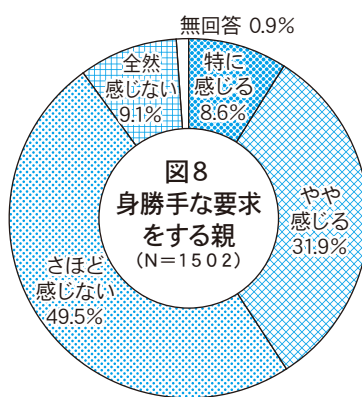
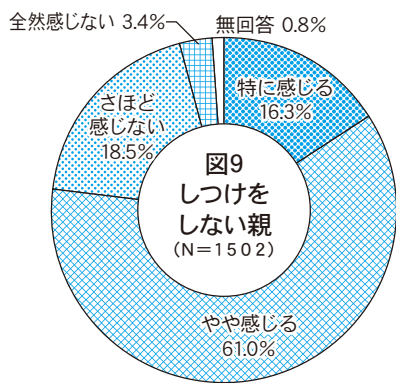
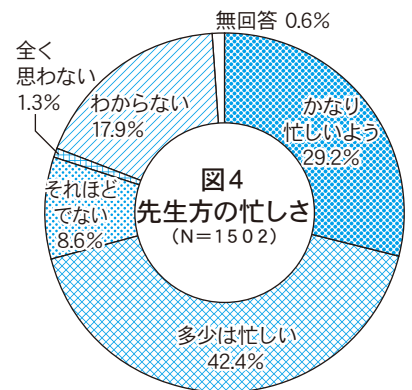
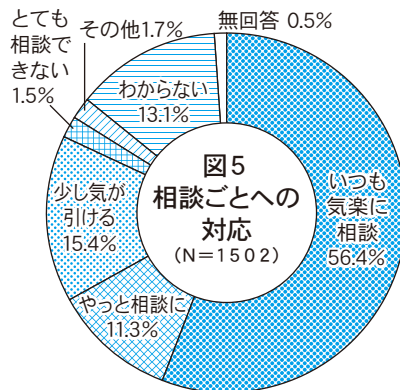
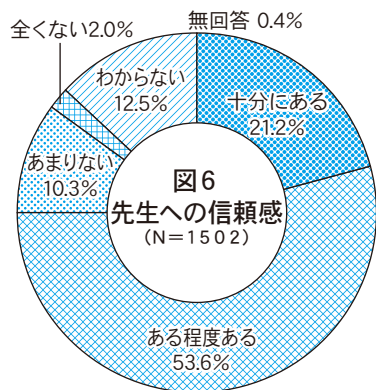
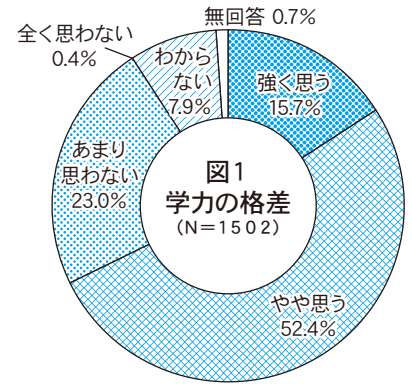
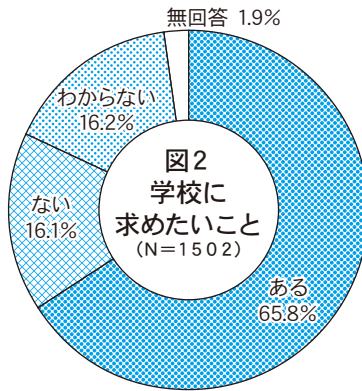
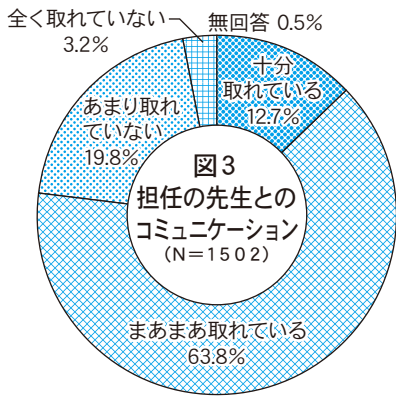
保護者自身の教育や学校に対するかかわりや態度についてみてみよう。「授業参観などで、私語をしたり、携帯電話で撮影したり、好ましくない保護者が多い」との声については、「さほどそう感じていない」が41.3%と最も多く、次いで「ややそう感じている」が34.8%と続いている。「特にそう感じている」(12.2%)、「ぜんぜんそう感じていない」(11.0%)を加えて「感じている」と「感じていない」に分けてみると、両者に大きな差はみられない(図7)。「学校や教育委員会に対して身勝手な要求をする保護者が多い」との声については、「さほどそう感じていない」が49.5%と最も多く、「ぜんぜんそう感じていない」(9.1%)を加えると6割強(58.6%)の保護者が否定していると思われる。「ややそう感じている」(31.9%)、「特にそう感じている」(8.6%)との肯定的な保護者は4割(40.5%)である(図8)。

「家庭で子どもに十分しつけをしない保護者が増えている」との声に関してはどうか。「ややそう感じている」が6割強(61.0%)と最も多く、「特にそう感じている」(16.3%)を加えると8割強の保護者が家庭でのしつけの不十分さを感じている(図9)。

最後に親と子どものコミュニケーションについてみてみよう。

父親との関係では父親のいない家庭(107名)、母親との関係では母親のいない家庭(27名)を除いてみる。父親と子どものコミュニケーションでは、「ある程度取れている」が6割強(58.2%)で最も多く、次いで「十分取れている」が27.0%であり、8割以上(85.2%)が父親と子どもとのコミュニケーションは取れているとしている(図10)。母親と子どものコミュニケーションでは、「ある程度取れている」が6割強(58.0%)で最も多く、次いで「十分取れている」が38.1%であり、ほぼ100%近く(96.1%)が母親と子どもとのコミュニケーションが取れているとしている(図11)。子どもとのコミュニケーションが取れている割合は母親の方が父親より10%以上大きい。

以上が主要な設問の概要であるが、詳細についての分析は3月に発行される報告書を参照してください。



# 「共に学び、いのち輝く平枝っ子」の 育成をめざして

真室川町立平枝小学校父母と教師の会会長 姉崎園子

## 一、はじめに

本校学区は酒田市と結ぶ国道三四号線沿いにあり、中央部を北から南に鮭川（大沢川）が貫流しています。その流域と支流沿いに「高坂」

「平枝」「大平」「大池」「谷地の沢」「西川」の六つの集落があり、稲作を中心とした農村地域として成り立っています。平成九年に校舎を改築し、教育振興会が設立され、学校と地域が身近な存在となり現在に至っています。今年度、優良PTA文部科学大臣賞を受賞することができました。これは、歴代の父母と教師の会の方々の実績を引き継ぎ、小規模校でありながら伝承文化への取り組み、休日合校、地域の方々との連携など、父

母と教師の会の地道な努力と、地域からの協力が広く認められたものと、大変名誉に思っています。

## 二、特色ある取り組みについて

### (一) 家庭・地域との連携

今年度の活動テーマである「共に学び、いのち輝く平枝っ子」く食・生活リズム・体力づくりを通してくを踏まえ、「しつかり朝ご飯」「早起き」「元気に外遊び」を重要課題と捉えました。子どもたちの成長の様子や、課題等について、担任と子育てについての協力の仕方を話し合いました。そして、各家庭の取り組みを、年四回の生活リズム調査で確かめました。さらに、新しい取り組みとし

てノーテレビデーへの挑戦があります。

学校保健委員会には、全員が参加します。町の栄養士さんをお迎えし、今年度は「朝食の大切さく栄養バランスのよい食事と健康」に関わ

るお話をお聞きしました。それが家庭の食事にも生かしていけるよう、学級懇談会でも取り上げ共通理解を図っています。

また、参加希望の児童の保護者を募り、スポーツ教室を開いています。基礎体力の向上を図ることがねらいですが、合わせて競技技術の向上も目指すようにしています。参加児童全員が、スポーツに取り組めるように配慮した活動を行っています。

### (二) 伝承文化の継承

平枝地区には、江戸時代の中頃、秋田県から伝わった番楽が残っています。昭和四十八年に番楽保存会が設立され、後継者の育成・存続を願い、昭和五十五年平枝少年番楽教室が開校され、毎年旧の八月一日のお祭りに集落の皆さんにご披露しています。舞い手は四年生以上の児童で、お祭り前の二週間ほど、番楽保存会の方々のご指導を受けています。保護者は毎回練習を見守り、公演前は家庭でも学校でも練習に励んでいます。

### (三) 休日合校

ゆとり教育が採り入れられ、土、日が休校日になった時期に、休日合校を始めました。地域の方々や、保護者・教師を講師として、各種教室を開きました。老人クラブのグラウンドゴルフ教室、炭焼き保存会の炭焼き教室、パソコン教室も開きました。また、その一環として、親子で高坂ダムへ行ったり、象子街道を歩いてみたり、いも煮会

を行ったりしました。地域の方々との交流も深まり、学校への関心も、より高まりました。

### 三、おわりに

児童数の減少、会員数の減少が今後さらに進むことが予想される現状です。PTA組織の改革なども考慮し、伝承文化の継承、十三名の子どもたちが、地域の中で明るく育つことを願っています。共に学び、いのち輝く平枝っ子の育成をめざした活動を推進していきたいと思





## 一、はじめに

この度、優良PTA文部科学大臣表彰という大変名誉ある賞をいただき、これまでに活動に関わっていただいたすべてのPTA会員の皆様、先生方、地域の皆様へ感謝申し上げます。また、この表彰の推薦にあたり、ご指導いただいた関係諸機関の皆様にも重ねて感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

港南小学校は、昭和四十五年、亀ヶ崎小学校より分離独立、来年度には創立四十周年を迎えます。現在、記念式典・祝賀会へ向け、実行委員を中心に、PTA・学校が一丸となり準備を進めているところと、この記念すべき年を前に表彰をいただいたことをとても喜ばしく思います。

二、PTAの姿

さて、本校の児童数は百八

十六名、PTA会員数は百四

十二名、全学年一学級で、酒田市中心部にほど近いところであり、市街地にある学校として、小規模校の学校です。しかし、小規模校とはいえ、保護者同士が仲良くまとまりがあり、協力体制が良くできています。その一つとして役員選出があります。港南

度の役員を選出し、新年度はスタートからすぐに新体制で活動することができ、誰かがやらねばという思いの保護者が多く、とてもありがたいと思います。

## 三、活動の三つの柱

さて、本校PTAは「共に学び共に歩もう」をスローガンに「学ぶPTA」・「子ども

中でも子どもの成長を見守る特徴的な活動に「早寝早起き朝ご飯」と「ノーメディア・イエス語らいデー」があります。

どちらも学校保健委員会で話し合われるテーマであり、学校医の先生方とも連携して行っています。

「早寝早起き朝ご飯」では、食育に関する活動として、学区の食生活改善協議会や社会福祉協議会と連携して親子料理教室を実施したり、「我が家の手づくりレシピ」を募集し、全会員へ配布したりしています。また親子研修で学校内科医の先生を講師として招聘し、生活リズムのお話を伺ったりする活動も行っています。

「ノーメディア・イエス語らいデー」は、月一回は各家庭でテレビを消し、ゲームも

しないで家族で会話を楽しむ、読書を楽しむ、一緒に身体を動かすなどして親子のふれあいを楽しむという活動です。学年毎に取り組みの結果を集約し、学校保健委員会で発表したり、広報で伝えたりしています。ほとんどの会員から良い感想が寄せられ、毎年実践の輪が広がっています。三年間継続してきたこの活動はこれからも大事に続けていきたいと思えます。

学ぶPTA活動では、学年毎に親子研修を行っています。交通安全教室、防災学習、そばうち、陶芸教室など様々ですが、すべて学年Pで企画運営を行っています。

手をつなぐPTA活動では、ソフトバレーボールや親子ふれあい体操などのレクリエーション大会の開催、運動会での係活動への協力、学年毎の父親親睦会・母親親睦会の開催などで、大いに親睦を深めています。

その他、ボランティア活動も充実していて、春には子どもたちや国土交通省、市役所、自治会と連携し最上川河川清掃を行っています。毎年マス

コミにも取り上げられていきます。そして冬には学区子ども会連絡協議会と連携し、白鳥飛来地であるスワンパーク並びにその周辺の清掃活動を実施しています。

月二回の読み聞かせボランティアを母親委員や父親と一緒にやっていて、子どもたちには大変好評です。

また、夏のボランティア活動では、これまでに、遊具のペンキ塗り、側溝掃除、ピオトップ作り、学校図書館の移動などを行ってきました。今年度は親子花いっぱい運動を実施し、親子でプランターに花の苗を植え、学校の周りを花でいっぱいにしました。

そして、六年生親子による校舎内のペンキ塗りです。六年間の最後に感謝の気持ちこめて学校をきれいにしてくれます。校舎内が明るくなり、とても喜ばれています。

## 四、終わりに

最後に、この度の賞を励みに、これからも学校・地域と連携し、よりよい充実した活動をめざしてがんばりたいと思います。

# 共に学び、共に歩もう

酒田市立港南小学校PTA会長 中山秀人

優良PTA文部科学大臣表彰

このたび日本PTA全国協議会会長表彰を受賞いたしました。このような素晴らしい表彰を受賞出来ました事は、これまで本校PTAを支えていただいた地域の皆様、先生方、そして先輩会員の取り組みの賜と深く感謝申し上げます。

私達の寒河江市立高松小学校は寒河江市の西部に位置し、学区内には寒河江川が流れ、寒河江市の中でも自然に恵まれた環境にあります。学校創立百三十五周年、PTA設立が昭和二十二年であります。今年度の児童生徒数百六十二名、PTA会員数が百三十七名と小規模校です。

小規模校だからこそ出来る事かもしれませんが、全員参加のPTA活動を行ってまいります。役員選出方法を述べますと、学区内七つの地域からそれぞれ地域毎、決められた人数を毎年選出していただいております。一般役員は単年度制ですが、児童一人が卒業するまでに、最低二年は役員をやっていたく事になります。お子さんの多い保護者は五回六回と役員を経験する事

もめずらしくありません。役員経験のある保護者の方であれば、役員の苦勞も分かっていたりしておりますので、役員でない時でも全ての事業に積極的に参加していただき、また、過去の経験による貴重な前向きな意見もいただきませぬ。誰が決めた訳ではありませんが、小規模校が故に必然的に全員参加のPTAになつたのではないかと考えています。

## 日本PTA全国協議会会長表彰 全員参加のPTA

寒河江市立高松小学校父母と教師の会会長

渡邊 保夫

私は今年度から会長をさせて頂いておられますが、PTA経験の浅い私でも支障なく会長職を遂行出来ているのも、保護者全員の協力のおかげと感謝しております。

委員会を設置し、部員は学年委員も兼ねるので、各部の活動の目的に関する共通理解が各学年レベルにおいても充分図られていると考えています。保体部と連携して母親委員会が学校保健委員会に参加し、児童の健康に関する研修に取り組んでいます。母親委員長は、PTA副会長を兼任しているため、役員の中で一番仕事量の多い役職になつて

行事で、地域の方や保護者を講師として迎え、学年毎に体験学習を行うものです。活動の主旨は以下の二点です。

- 親と子、子ども同士、他の親と子、親同士が仲良くなることを目的とした体験活動とする。
- できる範囲内でより高松（山形）らしい風土（自然、文化）を活用した体験活動とする。

学年毎に内容を決めて実施しています。地域の良さを実感すると共に地域の方、親子、先生方との親睦が図られ、子どもたちにとって楽しみながら行事の一つになっています。今年度行った親子フェスティバルの内容を紹介します。

### 一、組織・運営

四部会（総務部、研修部、保体部、生活環境部）二委員会（学年PTA委員会、母親

### 二、活動

PTA主体の事業で「親子フェスティバル」を毎年七月上旬に開催しています。学年

一学年「親子自転車教室と冷やしそうめん会食」

二学年「親子で太巻き作り」  
三学年「うどん作りと親子

ドッジボール大会」  
四学年「うどん作りとプラネタリウム鑑賞」  
五学年「平清水焼 陶芸教室」  
六学年「月山登山」  
私は六年生の保護者として月山登山に参加しました。安全面は大丈夫か、という学校側からの意見もあり、役員だけではなく全保護者で知恵を出し合い協力し合つて、問題をクリアして実施に至つた経緯があります。

私事ではありますが、山登り往復で七時間、山頂の山小屋での昼食と、体力的には大変でしたが、父親離れた娘との貴重な体験をする事ができました。

### 三、おわりに

親同士が仲良くなければ子どもたちの関係にも影響はあります。親が楽しくPTA活動や学校行事に参加しなければ、子どもは楽しいはずがありません。質の高いPTA活動は出来ないかもしれませんが、子どもの笑顔のために、親も楽しみながら参加できる環境作りと、活動を行つて行きたいと考えております。

平成二十一年度優良PTA及び功労者表彰記念式典が東京紀尾井町のホテルニューオータニにて、関係者総勢約千人が出席し盛大に開催されました。席上、叶水小中学校PTAは「日本PTA全国協議会会長賞」を受賞いたしました。ご来賓の祝辞の中に「未来を担う子どもたちへの教育は国家の根本と言うべき大切なもので、PTA活動は家庭・学校・地域の連携を図る上でとても重要な活動です。」とのお言葉を頂戴いたしました。

受賞にあたり、推薦して頂いた関係各位に謝意を表しますとともに、本校のPTA活動を紹介し、受賞のお礼とさせていただきます。

### 一、地域と学校の概要

西置賜郡小国町の東部地区に位置し、校区のほとんどが山林で、そこに流れる二本の川沿いに約百世帯が居住しています。

明治六年の創立以来、小学校が今年度で百三十六周年、中学校は六十二周年を迎えます。現在は小学校十人、中学校十二人が在籍する、へき地三級の小中併設校です。この地区内には本校の他に、叶水

保育園、基督教独立学園高等学校があり、ひとつの教育文化圏を形作っている、とても珍しい地域だと思えます。

保護者の構成は、以前から住んでいた方と、他県から転居してきた方と、学園の教職員で、それぞれ約三分の一の割合となっています。

### 二、PTAの組織と主な活動

校区の全戸と全職員がPTA会員です。会議は総会、三

効利用しています。また、親子健康教室を開催し、親子で健康や安全の意識を高めています。

### 三、特色ある活動

#### 「地区大運動会」

本校では東部地区体協と独立学園高校との共催で運動会を行っており、本校がその企画・運営の中心になり、小中高と保育園、地域が一つになり、校区のほとんどの方が本

劇、学園生の合唱やハンドベル演奏、地域の合唱サークルとPTAが一緒になっての合唱を、地域の人達に発表します。内容的にも質の高い文化祭になっていると思えます。

#### 「叶水っ子見守り隊」

地域の子どもの安全を守る組織です。隊長は地域の老人クラブ長の方に務めていただき、地区防犯協会との協力で、登下校時や地域の危険

## 日本PTA全国協議会長表彰

# 地域とともに「いきいきアクション」

小国町立叶水小中学校PTA会長 渡部 正仁

役会、理事会などがあり、年四回ほど役員会を行っています。

専門部は研修広報部と生活保体部があり、活動としては、研修広報部がPTA広報誌を年三回発行し、活動内容や、会員の声を紹介しています。

また、年一回の研修会も開催しています。生活保体部は、年二回のリサイクル活動を行い、環境やエコに対する意識を高めながらその収益金を有

校に集い地区大運動会を開催します。大運動会終了後は各地区の公民館で児童、生徒、保護者、地域の方、先生方に参加していただき反省会を行っています。

#### 「学校文化祭」

午前中は学校文化祭で、午後からは地域が主催となり、ふるさと祭りを行います。地域の婦人部で作っていたたい芋煮と学園生の手作りパンを頂いた後に、地元劇団の演

個所の点検確認等を行っています。たいていいます。

#### 「スクールボランティア」

PTAの会員や独立学園のボランティアの高校生との協力も得ながら、朝の読み聞かせや、放課後の「お楽しみ広場」や「英語広場」を行っています。

#### 「その他の活動」

老朽化したプールをPTAの共同作業で再生したり、総合的な学習の時間で、食育を

テーマに、地域の方に協力していたいただき、野菜や、有機米の栽培から収穫までの実習をしたりし、様々な教育活動の場面で地域や家庭の力をお借りし、生きた体験を通して、子どもたちの「学び」を育んでいます。

### 四、今後の課題

少子化に伴い、本校の児童生徒数の減少も例外ではありません。数年後の状況を考えると、PTAの今後のあり方（組織や活動内容等）を考える時期にきていると思います。組織があるから何かしなくてはならないのでなく、したいことがあるから組織がいきいきと動くようなアクションなPTAでありたいと思います。

### 五、むすびに

このたびの受賞はこのような取り組みや活動が評価されたの事だと思いい、大変うれしく思うとともに、日ごろより保護者の皆様、学校関係者、地域の方々のご理解、ご協力により成しえた賞だと心より感謝しております。

この賞をきっかけに、今まで以上に地域とともに「いきいきアクション」を進めて行きたいと思えます。

## 日本PTA全国研究大会に学んだこと



西置賜地区PTA  
連絡協議会会長  
村上 榮一

二〇〇九年八月二十一日〜二十二日、「向き合おう！まっすぐに 語り合おう！子どもの未来のために」を大会スローガンに、宮城県に於いて、第五十七回日本PTA全国研究大会が開催されました。山形県からは、隣県ということもあり、三百名を超える多数の参加者がありました。

一日目、私が参加した特別第二分科会は、研究テーマを「地域と学校をつなぐPTAの役割」とし、「基調講演」「対談」「シンポジウム」の三部構成でおこなわれました。「シンポジウム」には、本県PTA連合会長であり、日本PTA全国協議会副会長でもある遠藤正明氏がパネリストとして参加し、「学校・家庭・地域を結ぶ」ことについて熱く語られました。

その日の懇親会は、松島『一の坊』で、山形県内参加者三百名を一堂に会した大規模なものになりました。大いに盛り上がり、各地区ごとの二次会へとつなげたようでした。

二日目、東北大学教授、川島隆太氏を講師に、全体会記念講演がありました。「脳科学から見た 早寝・早起き・朝ごはんの大切さ」と題されたものでした。脳が働くためには、十分な睡眠とバランスの取れた食事（ごはんなどの主食だけでなく、みそ汁・野菜・魚などの副食も一緒に取る。）が重要であること。そして、子どもたちの「生きる力を育む」ためには、「家庭で親子が関わり合う事」が必要であること。具体的には、親子で何かを一緒にやること、そして子どものできた事をすぐ褒めてやる（または、話しかける）事が一番大切なことであると話されました。

「さつき上手だったね。」より、その場で「上手ね。」とほめると、脳の働きがとてよくなるのだそうです。お聞きしたことは、ちよつと心掛けるだけで、子の頭がよくなったり、よりよく育つようなので、是非実践したいと思いました。

この大会に参加し、いろいろな勉強をさせていただきました。学んだ事を地域に広めていきたいと思えます。

## 初めての全国研究大会に参加して



酒田市PTA連合会会長  
三浦 哲哉

第五十七回日本PTA全国研究大会みやぎ大会が、八月二十一日〜二十二日に開催されました。滅多にならぬ隣の全国大会ということもあり、山形県からは三百名を超える会員が参加しました。

一日目、私が参加した第三分科会・学校教育では、地域の特産物の開発や販売に子どもたちも参加させる「みやぎらしい協働教育推進事業」の実践発表が印象に残りました。しかも、報酬を得られる起業教育によって、子どもたちの「生きる力」を育み、地域の経済振興にも貢献していただきました。学校・地域・PTAが互いに求め合う新しいスタイルを見たと思います。

二日目は全体会です。全国大会が初めての私にとつて一会場に約八千名の会員

が集結する姿は圧巻でした。川島教授の記念講演では、子どもたちの脳に効果的な朝ごはんの食べ方やほめ方などを学ぶことができました。

こんなにも大きな大会なのに全体会を通してスムーズな運営ができていたのは、五年前からの準備を地道に積み重ねた成果だと思えます。スタッフが、笑顔で丁寧に対応してくれて、歓迎の意志を強く感じました。

県P連では、送迎に六台の大型バスを無料で運行しましたが、運転が不要なだけでなく、移動中の車内で交流が図れるなどもあり、とても好評だったようです。また、宿泊先を松島・一の坊に統一し、盛大に懇親会をおこないました。研修とはまた違う貴重な一夜は、様々な地区の方々と熱く語り合うことができ、その想い出は今でもすぐに甦るほどです。この様な機会を設定していただいた県P連事務局に感謝します。

今大会は、幸いなことに酒田・飽海地区からも、春先からの呼び掛けに応じて多くの会員が参加してくれました。各々の目や耳で、直接体験できたことは、家庭や単位PTAで実践に繋がっていたただけでなく、二十四年度に酒田・飽海地区で開催される東北大会の準備を、これからこの仲間たちと進めるためにも大いに役立つと期待しています。

# 栄えある表彰 おめでとうございます

今年度、県PTAや郡・市PTA、単位PTAにご尽力なされ、多大のご功績をあげられた団体・個人の方々に感謝状や表彰状がおくられましたのでご紹介いたします。

## 優良PTA文部科学大臣表彰

### ◇団体

真室川町立平枝小学校父母と教師の会  
酒田市立港南小学校PTA

## 日本PTA全国協議会会長表彰

### ◇団体

寒河江市立高松小学校父母と教師の会  
小国町立叶水小・中学校PTA

### ◇個人

川 口 豊  
(平成20年度県P連副会長)  
須 田 貞 夫  
(平成20年度県P連副会長)  
菅 滋 徳  
(平成20年度県P連副会長)

## 東北PTA連絡協議会表彰

### ☆表彰状

### ◇団体

山辺町立相模小学校PTA  
村山市立大久保小学校PTA

### ◇個人

元 木 明 彦  
(平成20年度県P連理事)  
志 田 祐 啓  
(平成20年度県P連理事)  
片 桐 久  
(平成20年度県P連理事)  
齋 藤 学  
(平成20年度県P連理事)  
奥 山 仁 志  
(平成20年度県P連理事)  
長 岡 正 一  
(平成20年度県P連理事)  
目 黒 淳 一  
(平成20年度県P連理事)  
柿 崎 教 之  
(平成20年度県P連理事)  
小田原 浩 規  
(平成20年度県P連理事)  
我 妻 真奈美  
(平成20年度県P連理事)

## 優良PTA山形県教育委員会表彰

寒河江市立高松小学校父母と教師の会  
村山市立大久保小学校PTA

東根市立高崎小学校PTA  
山辺町立相模小学校PTA  
真室川町立平枝小学校父母と教師の会  
小国町立叶水小・中学校PTA  
川西町立玉庭小中学校PTA  
酒田市立港南小学校PTA  
酒田市立八幡中学校PTA

## 山形県PTA連合会会長表彰

### ☆感謝状(県PTA連合会役員退任者)

川 口 豊  
(平成20年度県P連副会長)  
須 田 貞 夫  
(平成20年度県P連副会長)  
菅 滋 徳  
(平成20年度県P連副会長)  
元 木 明 彦  
(平成20年度県P連理事)  
長 岡 正 一  
(平成20年度県P連理事)  
志 田 祐 啓  
(平成20年度県P連理事)  
目 黒 淳 一  
(平成20年度県P連理事)  
片 桐 久  
(平成20年度県P連理事)  
柿 崎 教 之  
(平成20年度県P連理事)  
齋 藤 学  
(平成20年度県P連理事)  
小田原 浩 規  
(平成20年度県P連理事)  
奥 山 仁 志  
(平成20年度県P連理事)  
我 妻 真奈美  
(平成20年度県P連理事)  
高 橋 唯 悦  
(平成20年度県P連監事)  
☆表彰状(郡・市PTA連合会より推薦)  
後 藤 俊 則  
(山形市PTA連合会)  
村 岡 雅 史  
(山形市PTA連合会)  
推 名 正 美  
(山形市PTA連合会)  
調 所 伸 一  
(山形市PTA連合会)

片 桐 博 夫  
(天童・東村山地区PTA連合会)  
岸 正 寿  
(天童・東村山地区PTA連合会)  
高 橋 幸 宏  
(最上地区PTA協議会)  
板 垣 誠 弘  
(最上地区PTA協議会)  
屋 嶋 雅 一  
(西置賜地区PTA連絡協議会)  
大 瀧 力  
(鶴岡市PTA連合会)  
小 島 敏 明  
(鶴岡市PTA連合会)  
村 田 勝 利  
(酒田市PTA連合会)

## 第31回全国小・中学校PTA 広報紙コンクール

### ☆日本PTA全国協議会会長賞

酒田市立松原小学校PTA

### ☆日本PTA奨励賞・山形県PTA会長賞

東根市立東根小学校PTA  
真室川町立安楽城小学校PTA  
米沢市立松川小学校父母と教師の会  
酒田市立亀城小学校PTA  
遊佐町立西遊佐小学校PTA  
山形市立高橋中学校PTA  
新庄市立日新中学校PTA  
最上町立最上中学校PTA  
鶴岡市立鶴岡第四中学校PTA

### ☆山形県PTA会長賞

山形市立第八小学校PTA  
山形市立南沼原小学校PTA  
高島町立糠野目小学校PTA  
鶴岡市立朝陽第一小学校致道会  
鶴岡市立朝陽第三小学校PTA  
鶴岡市立朝陽第四小学校暁光会  
鶴岡市立朝陽第五小学校PTA  
酒田市立新堀小学校PTA  
酒田市立富士見小学校PTA  
酒田市立港南小学校PTA  
酒田市立浜田小学校PTA  
鶴岡市立鶴岡第三中学校PTA

# 日中友好少年少女の翼に参加して

## 無知の知

鶴岡市立鶴岡第一中学校

三年 冨樫一郎太

僕は今回の観光と交流に参加して本当に多くのことを学びました。

中国に着いて最初に、人の多さ、そして、日本と比べた規模の大きさに驚かされました。空港での移動は電車、しかも、毎回満員でした。そして、外に出てからも国有の真つすぐで巨大な道路、バスガイドの方が滑走路にもなるくらい大きいなどの説明があったとき、日本で僕が思っていた中国に対するイメージが覆されました。中国の人は、以前まで冷たいと思っていました。しかし、みんな穏やかで、中国人の方から話しかけてくる程でした。雑技観賞や大熊猫など、日本ではあまり見る事ができないとても素晴らしいものを見学させてもらいました。

交流では、僕たちと同世代の中学生と交流しました。特に驚いたことは、勉強のレベルが高いことです。とても難しいことを少しの説明で理解してしまう姿に、僕はとても驚かされました。

今回の旅は驚きの連続でした。そこから、僕は国際交流の素晴らしさを学びました。そしてこの旅で学んだことを今後役に立てていきたいと思えます。御世話になった方々、本当にありがとうございました。

## 中国を訪問して

鶴岡市立鶴岡第三中学校

三年 佐藤 桃子

私は全国から集まった仲間たちと中国の首都・北京を訪問しました。

中国には歴史を感じさせる街並みや建築物が多くありました。万里の長城は段や坂が急で雪が降ったこともありとても大変でしたが、上の方から見るその姿には言葉に表せない程感動しました。また北京オリンピックスタジアム鳥の巢の設計はテレビで見る以上に美しいものでした。しかし、衛生面や安全面では日本との違いに驚かされました。水道水は生水で飲料水としてはもちろん、口に含むこともできませんでした。トイレ事情も想像以上に悪い状況でした。道は車であふれ、人や自転車の往来が激しく、異常なまでにクラクション音が鳴り響いていました。中国の環境問題である大気汚染も肌で感じとれる程でした。これらは自分の目で見なければ分からない事でした。楽しみにしていた中国人中学生との交流会では、英語力に驚かされ共通言語である英語の重要性を再認識しました。今はメールを通しての交流が始まっています。

大袈裟かもしれませんが、この一歩を踏み出せたことが、未知なる自分に出会うきっかけになったように思えます。この日中友好少年少女の翼を支えて下さったPTAの方や先生方、多くの関係者の皆様、そして六日間を共に過ごした仲間たちに

心から感謝しています。またいつかどこかで再会できることを願っています。謝辞！そして再見！

## 永遠の絆

庄内町立余目中学校

三年 佐藤 花菜

私は今回、たくさんの方を学んでくることができました。その中でも特に『仲間』『異文化に触れる』という点は自分で成長できたと感じました。

『仲間』については、主に同じ七班の人たちのことです。私は同じ班の仲間について早く知りたくて、事前に手紙を出しておきました。そのことがきっかけで、東京で会ってすぐ打ち解けることができました。そして、待ちに待った中国では、班のみんなと一緒に万里の長城に登りました。思った以上に体力的にも精神的にもハードなものでした。でも、「あと少しだよ!!」とか「あの休憩所まで頑張ってみよう!!」などという声のかけ合いから、私は登って良いと許可されているギリギリの所まで登りきる事ができました。そしてまた、帰りの下りが上り以上に大変で驚きました。しかし、手すりにつかまりながら、そして限られた時間の中で何が何とかがスタートした地点に戻ってくる事ができてホッとしました。これはきっと『仲間』がいなかったら途中で頂上まで行く事をあきらめていたかも知れません。絶対一人ではできない事だったと思

います。『仲間』がいたから頂上まで行くことができました。そんな『仲間』に私は今、言葉で表せないほど感謝しています。

『異文化に触れる』という点では、ただ日本国内にはできない、本場ならではの太極拳もできて感動しました。そして食べ物も、日本で食べる中国料理とはやっぱり一味も二味も違いました。山芋にブルーベリーのソースがかかったようなものがあったり、火を吹き出しそうなほど辛い麻婆豆腐が出てきたり……と様々でしたが、これも一つの思い出になりました。それから特に印象に残ったのは、同じ学年の北京の中学生と交流パーティをしたことです。会う前は『中国語は上手でないし、『ミニユニケーション』がとれるかな……』と内心、心配でしたが実際に会ってみると相手はとても流暢な英語を話していて、私も不慣れた英語を頑張って使いこなしました。もしかしたら、相手にはカタコトの英語にしか聞こえなかったかも知れないけど、私はこの時、母国語がお互い通じない中で『ミニユニケーション』をとる楽しさを学びました。

今回の旅で、『一生付き合っていく仲間』という大切なものを土産、そして宝物として持って帰ってくる事ができました。この仲間を一生大切にします。

日中友好を通して、聞いたこと、見たこと、体験したことを誇りにしてそれを今後の生活に上手く生かしていけたらいいなと思います。

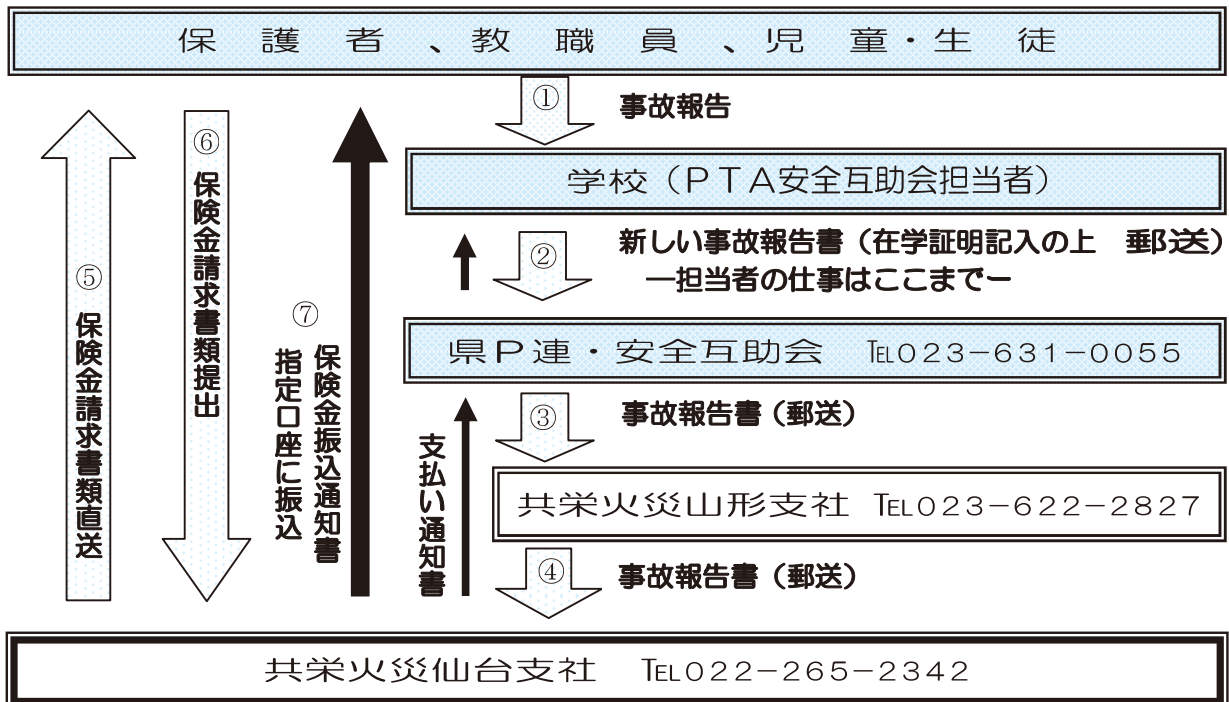
## 平成 22 年度 山形県 P T A 連合会安全互助会

平成 22 年 4 月から、学校（担当者）の仕事軽減のため手続きが変わります。

### 《加入手続き》 これまでと変わりません

1. 「山形県 P T A 連合会安全互助会委員会会則」目的（第 3 条）に則り、山形県 P T A 連合会は共栄火災と保険契約を結び手続きを行います。  
（会則・第 3 条「目的」）「本会は、県 P 連に加入する単位 P T A の児童・生徒の学校管理下外の事故、並びに P T A 会員の P T A 活動に伴う不慮の事故に対する傷害補償及び賠償責任補償措置を講ずるとともに、P T A 活動への助成を行うことにより、安全教育の向上と健全育成及び会員の福祉の増進に寄与することを目的とする。」
2. 趣旨に賛同された単位 P T A では、所定の手続きをしていただきます。
  - （1）県 P 連安全互助会は、単位 P T A へ加入案内及び加入申込書を送付する。（2 月末）
  - （2）単位 P T A は、各 P T A 会員へ、加入案内を配布し団体加入確認を行う。
  - （3）加入を決定した単位 P T A は、加入申込書を 4 月末までに県 P 連に送付する。
  - （4）各 P T A 会員の安全互助会会費は、5 月末までに県 P 連に送金する。（会費領収書は振込領収書になります。）
3. 県 P T A 連合会は、保険社に加入校一覧の送付と保険料の納付を 5 月末までに完了します。

### 《保険金請求手続き》平成 22 年 4 月から変更になります。



#### 山形県 P T A 連合会安全互助会事業（会則第 4 条）

第 4 条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- （1）会員の安全指導の徹底及び安全対策の推進
- （2）児童・生徒の学校管理下外における事故に対する傷害補償及び日常生活での偶然な事故による賠償責任補償に対する手続き
- （3）P T A 会員の P T A 活動中における事故に対する傷害補償及び P T A 行事における事故に伴う賠償責任補償に対する手続き
- （4）P T A 活動への助成
- （5）広報活動に関すること
- （6）その他本会の目的を達成するために必要な事業

# 平成22年度山形県PTA連合会研修大会のご案内



山形市立第七中学校  
PTA会長  
青木 哲志

## 未来を主体的に 切り拓く力を求めて

平成二十二年度の山形県PTA研修大会は六十二回目を迎え、十月十六日（土）に山形ビッグウイングにおいて全体行事・記念講演・五つの分科会を開催します。

これまでこの研修大会は、子どもたちを取巻く状況や環境の変化に応じた企画運営と多くの先輩方の努力により有意義な研修の場として伝統を築き上げており、各PTA活動に引き継がれてまいりました。

近年は、IT社会の進展や少子高齢化・核家族化の進行などにより、家庭や地域社会の教育力・若年層の

社会性が低下していると言われております。今大会では、「家庭」・「学校」・「地域」の調和ある関わりや活動を通して課題解決の糸口が見いだせればと思っております。また、本県においては、「いのち」「まなび」そして「かかわり」を柱とする第五次山形県教育振興計画のもと、「やまがたコミュニケーション改革行動指針」によりコミュニケーションを重視した、心が通い合う教育を県民運動として推進しております。子どもたちが未来を主体的に切り拓く力を求めて参加者みんなで語り合いたいと思っております。

最後に有意義な大会となりますよう関係各位のご協力のもと、主管校（大郷小・明治小・出羽小・第七中）一体となって準備してまいりますので、PTA会員皆様のご参加をお願い申し上げます。

### 平成21年度山形県PTA連合会役員名及び事務局員名

役員名	氏名	所属地区PTA	所属PTA	役員名	氏名	所属地区PTA	所属PTA
会長	遠藤 正明	山形市PTA連合会	山寺小中	理事	大滝 正人	東田川郡PTA連合会	東郷小
副会長	武田 岳彦	山形市PTA連合会	山五中	〃	本間 清悦	飽海郡遊佐町PTA連合会	高瀬小
〃	深田 裕一	最上地区PTA協議会	新庄小	〃	平尾 幸治	県小学校教職員代表	滝山小
〃	村上 榮一	西置賜地区PTA連絡協議会	鮎貝小	〃	齋藤 賢二	県中学校教職員代表	米沢二中
〃	三浦 哲哉	酒田市PTA連合会	泉小	〃	無着 道子	山形市PTA連合会	日大山形中
理事	芦野 芳男	上市市PTA連合協議会	上南中	〃	前田なぎさ	西村山PTA連合会	大江中
〃	大宮 幸輝	天童・東村山地区PTA連合会	相模小	監事	高橋 和典	山形市PTA連合会	山大附属
〃	奥山 博和	西村山PTA連合会	陵南中	〃	國井 晴彦	西村山PTA連合会	寒河江中部小
〃	早坂 幸起	北村山PTA連合会	楯岡中	〃	山本 正博	山形市PTA連合会	蔵王一小
〃	瀧口 宏	米沢市PTA連合会	興讓小	事務局長	鈴木 幹雄	山形市PTA連合会	事務局
〃	小林 俊一	東置賜地区PTA連合会	小松小	事務局員	佐藤 静子	〃	〃
〃	水口 直樹	鶴岡市PTA連合会	朝陽六小	〃	熊谷 慶子	〃	〃

### あとがき

◆平成二十一年は変革の年「チェンジ」が流行語となりました。政治も経済も不透明なまま長いトンネルから抜け出せると誰もが「チェンジ」という言葉に期待しました。しかし、いまだに先に光も見えないまま言葉だけが空虚に響いています。◆八月には日本PTA全国研究大会が宮城県各地で開催されました。全体会は利府町の宮城県総合体育館で、分科会は県内十一市町を会場に行われ、全国から約八千人、山形県からは三百十一名が参加しました。全体会で講演された川島隆太教授の脳科学の話は、子どもの脳の活性化にすぐにでも実践できそうな内容に皆さん頷きながら聞き入っていました。◆今年度は、県PTA連合会の「保護者の意識調査」を、舩田忠雄山形大学名誉教授のご指導を頂きながら実施しました。任意抽出された県内の小中学校五十五校約千六百名を対象に、主に、先生と保護者・親子のコミュニケーションに関する保護者の意識調査です。この調査は二月に「報告書」としてまとめられます。この貴重な調査結果を平成二十二年度の県PTA連合会の活動方針に生かすことになっていきます。

(m・k)